



2017年に武蔵野市の武蔵野アールブリュット展のディレクターとして、ギャラリー3施設、吉祥寺美術館の展示構成のキュレーション、ワークショップの実施、受賞作家さんの取材を担当させていただきました。取材を通じて、受賞作家さんの日常での制作活動を見ることができました。受賞作家のひとり、福祉施設の入所者さんはご自身の作品制作のほかに、木工の玩具の組み立ての作業を日課にしていました。

その素朴な木工製品からヒントを得たのが、TRAIN MUSEUMです。

作品を展示できるようなパネルとフレーム構造にして、フレームに車輪をつけた車両は、木工玩具と似た構造でできています。

この模型に作品を額装して、車両をつなげてゆくプロジェクトを提案します。フレームの中には、いろいろな方の絵を額装して車両を連結して展示します。

車両を組み立て、フレームの中には平面作品を展示する、参加者と共に制作するインスタレーションを提案します。

今回の展示では、床一面に2cmサイズの立方体を着色して並べました。

100色には100の言葉が存在し多くの色に接することでポキャブラリが増えると、ある幼児教育専門の先生から伺いました。多くの色が、感性や豊かな心を刺激することを期待し、車両を連結することで人が繋がることを意味するインスタレーションを計画しました。

制作協力:熊切材木店(台東区)